

1人1台端末の効果的な活用による 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善

富良野市立富良野小学校 学級数 20 (校長 内藤 晃宏 推進教員 安立勇次郎)
富良野市立扇山小学校 学級数 14 (校長 桑原 啓成 推進教員 清水 孝治)
富良野市立東小学校 学級数 12 (校長 小林 真弓 推進教員 北川 朋尚)

I 実践テーマの趣旨

富良野市では、授業改善推進チーム活用事業により、令和2年度は推進校2校、令和3年度は推進校3校、令和4年度は、新たに連携校1校を加えて取組を推進してきた。特に、GIGAスクール構想による1人1台端末の導入以降、ICTを効果的に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、授業改善を図ってきた。最終年度となる令和4年度は、授業改善推進チーム活用事業の終了後も、これまでの実践の成果と課題を踏まえ、各学校で持続的な取組となるよう実践を進めている。

II 実践の概要

1 個別最適な学びの実現

各学校において、児童が1人1台端末を活用し、それぞれのペースで学習できるような授業づくりに取り組んだ。

特に、1人1台端末からヒントカードを参照することができる環境を整えたことにより、主体的に問題解決に取り組む児童の姿が見られるようになった。

また、教師は、ICT端末上で児童の問題解決の進捗状況を確認することで、すぐに個に応じた指導を行うことができ、資質・能力の確実な定着につなげることができた。



【ICT端末またはプリントなど学習方法を自ら選択する学習】

2 協働的な学びの実現

グループでの学び合いの場面で、児童は1人1台端末を活用し、資料等を互いに転送して共有したり、アイデアを出し合い、1人1台端末上で思考を整理したりしていた。1人1台端末を活用することにより、児童は自分の考えを表出しやすくなり、また、相互に協力し合い、気付きや理解に深まりが見られた。

全体交流の場面では、児童一人一人が1人1台端末に記入したカード等を共有することにより、児童は、他の児童の考えを基に自分の考えを見直すとともに、教師は児童の学習状況を把握し、個に応じた指導の充実を図ることができるようになった。



【共有画面を見ながら全体の学習を把握】



【グループで考えを交流し(左)、自己の考えをまとめる様子(右)】

III 成果(○)と課題(●)

- 1人1台端末を活用することにより、児童は学習方法を選択することが容易になり、学びを調整しながら、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- 1人1台端末を活用することにより、教員は児童それぞれの学習の進捗状況を把握し、個別最適な学びの充実に向けた指導が可能となり、児童の資質・能力の確実な育成につながった。
- 1人1台端末を活用することにより、教員と児童、児童同士の情報共有が容易になり、互いの考えの違いを生かした協働的な学びに向かう姿が見られるようになった。
- 推進教員が中心となり、ICTの指導力向上に向けたアンケートの実施、通信等による1人1台端末の好事例の通信等による周知、クラウド上で活用事例を共有したことにより、富良野市全体で1人1台端末を活用した授業改善の推進が図られた。
- 授業での効果的な1人1台端末の活用方法を検証し、授業改善や研修の充実を図る必要がある。また、小・中学校の連携を図り、義務教育9年間を見通した1人1台端末の効果的な活用を推進する必要がある。